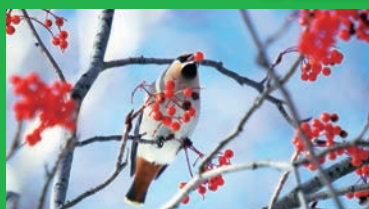




国際ロータリー
第2620地区

御殿場 ロータリー クラブ 週報



御殿場
ロータリークラブ
モバイルサイト

<https://www.gotemba-rc.jp/>

第2806回 例会プログラム

- 例会場／東山荘講堂 ●開会点鐘／12:30
- ロータリーソング／四つのテスト
- 内 容／第2回クラブ協議会（中間まとめ） 会長、幹事

会 員 慶 事

- 夫人誕生日／高橋隆造君 ご夫人 範子様
- 結婚記念日／勝又 厚君 秀子様 ご夫妻
- 山崎伊久雄君 久子様 ご夫妻
- 小早川豊一君 かず代様 ご夫妻
- 山口幸男君 勝子様 ご夫妻
- 井上 元君 浩子様 ご夫妻
- 皆 出 席／10月31日 芹澤隆博君（ロータリー歴12年）
- 11月8日 池谷正徳君（ロータリー歴13年）

会 長 挨 拶

豊 山 篤



本日は、はるばるアメリカ合衆国、ペンシルベニア州チェンバースバーグ市よりお客様をお迎えしました。チェンバースバーグロータリークラブメンバーの Crisitna Merrell さんと、そのご主人 Charles Merrell さんです。御殿場市並びに私も御殿場ロータリークラブにお越しいただき、本当にありがとうございました。

ご夫妻は、御殿場の姉妹都市であるチェンバースバーグ市からの訪問団の一員として来日されました。特に今年は姉妹都市提携65周年に当たります。訪問団一行は26日に御殿場市に到着され4日後の30日にアメリカに向け出立されました。その間、65周年の記念事業に参加された他、様々なところを訪問し、見学や観光をされて御殿場市滞在を満喫されたようです。

例会にて会員の皆様の前で、Crisitna さんとバナー交換をし、記念品や多くのお土産も頂きました。また、ご挨拶のなかでチェンバースバーグロータリークラブの紹介もされました。1920年設立とのことで、シカゴでの最初の例会が1905年であり日本で最初の東京ロータリークラブの認証が1921年であることを考えると、大変歴史があるクラブです。人口が23,000人というそれほど大きな市ではないところで63人のメンバーを有するそうで、本場アメリカのロータリークラブの奥深さを感じました。

5年後の2030年には順番として御殿場市からチェンバースバーグ市への訪問団が結成されるそうです。前回（新型コロナの影響で10年前）の訪問の際は御殿場ロータリークラブからも多くの参加者があったそうで、また訪問団参加が可能な方はぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

通常の例会よりもかなり時間が延長されてしまい申し訳ありませんでした。しかし、大変有意義な交流でした。皆様のご協力に感謝いたします。



会長挨拶はこちら

10/28の出席報告

会員数	出席計算に 用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の 確定出席率
54名	48名	40名	83.33%	100%

欠席者(8名)

池上 司君 石川又英君 柏原大地君 勝又博文君
勝又安彦君 芹澤隆博君 瀬戸正人君 高橋隆造君
※やむを得ず欠席される方は、午前9時50分までにご連絡下さい。

10/28のスマイル

Today is a big day. 博之稲葉君



司 会
長谷川雅也君



ソングリーダー
大胡田明寿君



よいことのために
手を取りあおう

次 回
11月20日の
例 会

★東山荘講堂 ★12:30
★ロータリー財団月間に因んで
ロータリー財団委員会 白井良太君



チェンバースバーグからの ロータリー友人を迎えるにあたって

根上 眞一 君

今日の私の話は、姉妹都市ロータリーの友人を迎えたこの機会を通じて、どのようにして姉妹都市提携が結ばれるに至ったかを話してくれと豊山会長から話されたことに端を発します。ご清聴いただければ幸いです。

1923年、今より102年前9月1日東京は未曾有の大地震に遭遇いたしました。マグニチュード7.9のこの地震で50万個の家が倒壊し15万人が命を奪われたと言われています。この地震の翌年秋にアメリカから当時の大統領夫人を団長とした復興支援団が来日いたしました。

一行は震災の視察の合間に、当時の日本の女子教育の最先端であった実践女学院を訪問したとのこと。その折に、一行の接待をしウェルカムスピーチをした利発で美人の学生がおりました。

復興支援団の一行は、この学生をとて気に入りこの学生を是非ともアメリカに連れて帰ってアメリカの本当のレディースとして育て上げたい、と申し入れたそうです。この学生こそ当時18歳だった“ツナ”だったのでございます。

アメリカに渡ったツナは復興支援団のメンバーであり、シアトルの材木王と言われたグリグス夫妻宅にて数ヶ月を過ごしました。グリグス夫人は真のレディース教育を受けさせるにはアメリカ西部よりも東部の学校で学んだ方が良くと考えました。そして、ペンシルベニア州のチェンバースバーグにあるペンホールがこの目的に最もかなう学校だったとしてツナをチェンバースバーグに送ることにしたそうです。このことが私たちがチェンバースバーグと関わりを持った最初のきっかけになったわけでございます。

チェンバースバーグにはペンホールと姉妹校のウィルソン大学がありました。ツナはその両校で学びアメリカの良い時代の中で素晴らしい青春を過ごし5年後に帰国いたしました。彼女は、この街に滞在中に民族を超え国境を越えたアメリカ国民の温かい友情に触れることができました。

この経験こそが、その後のツナの社会奉仕家としての人格を作り上げていったのだと思います。帰国後、ツナは御殿場出身の根上耕一と結婚し、ここに御殿場とチェンバースバーグとの縁ができた訳でございます。

そして何年もの月日が過ぎていきました。この間に日米間の戦争もありました。御殿場市への米軍の駐留もありました。演習場の問題なども多々ありました。この間にツナは御殿場にあって献身的に日米間の融和と架け橋の役を担ったと聞いております。

ここで当時の歴史を振り返ってみたいと思います。1955年にみくりやの地では町村合併が行われ御殿場市が誕生しました。1956年に勝又春一市長はツナを御殿場市の第1代の教育委員に任命いたしました。

1956年に、米国のアイゼンハワー大統領が各国の市民の代表者を招き、戦後の荒廃した国際関係を修復するには市民の草の根交流によるのが良いとの考えのもとに、国際間の姉妹都市制度を提案いたしました。これがホワイトハウス会議と呼ばれています。

1958年、ツナはホワイトハウス会議の精神を実現しようと御殿場市とチェンバースバーグとの姉妹都市関係を勝又春一市長に提案し、両市の姉妹都市関係が実現する運びとなったのです。姉妹都市提携文書は、当時自衛隊の顧問をしていたミフリン大佐が帰国に際しチェンバースバーグに届けてくださいました。

1959年11月当時25歳だった私は、ペンシルベニア州のLehigh大学にて大学院課程を専攻するため



に渡米いたしました。私を空港に出迎えてくださったミフリン大佐は出迎えのその足で私をチェンバースバーグのラジオステーションに連れて行かれました。姉妹都市御殿場からの最初の訪問者としてのインタビューをされたのを覚えています。

その後私はアメリカに13年間滞在しましたが、折に触れチェンバースバーグを訪問いたしました。友人も多く持つことができチェンバースバーグは私のアメリカでの故郷との思いが強くなってまいりました。

1960年8月、御殿場市では都市縁組式典を行いました。この式典には秩父宮妃殿下をはじめ 800人の来賓が参加しました。



ちょうどその頃、チェンバースバーグでも姉妹都市交流をどうやって進めたらよいかの話し合いが持たれていました。この推進役となったのが当時のハインツのトマト缶詰工場の工場長をしていたジョーンズさんでした。第1回の姉妹都市会議はジョーンズさんの自宅で行われ私も招待されたのを覚えております。

私の母ツナと勝又春一市長、礼子夫人、勝又喜六市会議長がチェンバースバーグを訪問すると聞いたのは1964年秋のことでした。春一市長は直前に胃の検査をしたということですが、そのためか、ひどくやつれてしまって食事が喉に通らない状態でした。家内がお粥と梅干しを持って行ったのですが、それを美味しくうに食べて、アメリカで初めて食事ができたとても喜んでもらいました。

聞くとところによると春一市長の健康状態は出発前から良くなかったのですが、春一市長は、俺は死んでも良いからツナと姉妹都市訪問するのだと言って聞かなかったそうです。

その頃にはチェンバースバーグも市となり弁護士シャープ市長が出迎えてくださいました。母ツナもこの時60歳になっておりこの再会までに35年間の月日が経っていたのですが、当時のツナの友人たちが続々と会いに来てくださったことを覚えています。短い滞在の後一行は帰国しました。春一市長の訃報を聞いたのは その1ヶ月後のことでした。

私たち家族4人は1972年までアメリカに在住した後、御殿場の家に帰ってまいりました。

本格的な姉妹都市交流が始まったのは1980年の市政施行25周年に合わせて、都市縁組20周年の式典を御殿場市が大々的に行ったことに端を発します。

その時私はチェンバースバーグの交流の代表者だったシュリクター夫妻と、5年後の1985年には御殿場市民の姉妹都市訪問団を結成すること、そして私がこちらの窓口として計画を進めていくことを約束いたしました。

1985年には大庭市長を団長とした50の人の市民訪問団が結成され、チェンバースバーグを訪問いたしました。ロータリークラブからは、大庭健三君、山中静樹君、橋本光男君、渡辺剛康君、勝岡田豪介君、幾田博夫君、菅沼久君、杉山博夫君、家族を含め13人が参加いたしました。チェンバースバーグでは街をあげての大歓迎でした。

この時に訪問団とチェンバースバーグ姉妹都市委員会の合同会議を行いました。ここで取り決めたことは、この姉妹都市関係を長く続けていくために公式訪問を5年ごととし交互にホストを行うことでした。もう1つの取り決めは、両市で市民交流の窓口を作ることでした。

チェンバースバーグではシュリクター夫妻がこの任にあたり、姉妹都市委員会が発足いたしました。ウィルソン大学からは御殿場奨学金制度の提案もなされました。

御殿場では私が交流の窓口となり、御殿場姉妹都市協会を設立し、連絡を取り合っていくこととしました。

当時は今のような国際社会とは縁遠い時代でしたが、御殿場姉妹都市協会では1000人近い会員と企業の賛助



会員が協力してくださり、活発な国際理解活動を行うことができました。

1990年には約束通りシュリクター夫妻が訪問団を連れて御殿場に来て交流を楽しむことができました。しかしこの訪問団の受け入れを最後として御殿場姉妹都市協会は活動を御殿場市国際交流協会に引き継ぎをいたしました。

その後の両市の5年ごとの交流は続いており、コロナ禍による一時中断はあったものの今回の訪問団の受け入れとなったわけでございます。

ここでこれからの交流について少し考えてみたいと思います。都市提携とは、市民の盛り上がる力によって結ばれた2つの都市が積極的に交流を図りながら国境を超えた友情を育てていくことだと思います。ここで大事なのは市民の盛り上がる力を如何に持続し、また次の世代に受け継がせていけるか、ということにあるかと思っています。

5年ごとの相互訪問は定期的な刺激策であって訪問の機会ごとに理解者を増やしていくためには有効であろうと思いますが、しかしそれだけでは盛り上がりにはかけると思います。

私が思うに、お互いに今回知り合った相手や団体と個々に連絡を取り合い、自由な交流が数多く生まれてくる網の目のような仕組みを考えていくことではないかと思っています。今回も数多くの交流の糸口が開けてきたと思います。家族的な付き合いが生まれてきたならば素晴らしいと思います。商工会やロータリークラブ相互間の交流や連携もあるでしょう。恒例的にチェンバースバーグでホストをしてくださっている幾つかの団体と御殿場の対応する組織が連携を取り合って欲しいとも思います。

最後にチェンバースバーグの皆さん、協力してくださった御殿場の皆さん、ありがとうございます。私は90歳という歳になり、歳を重ねてきてしまいましたが5年後の訪問、そしてその先の5年ごとの相互訪問に備えて健康に留意し頑張っていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。



10/9の メーキャップ

10月3日	せせらぎ三島	鈴木榮一君	10月13日	北海道Eクラブ	林 泰博君
10月6日	兵庫Eクラブ	豊山徹也君	10月15日	北海道Eクラブ	勝又博文君
10月9日	北海道Eクラブ	池上 司君	10月15日	北海道Eクラブ	田代明人君
10月9日	北海道Eクラブ	山内 剛君	10月23日	フードバンク	森田義彦君

Rotary 国際ロータリー第2620地区

御殿場ロータリークラブ

○例会日/木曜日
○例会場・事務局/YMCA 東山荘
静岡県御殿場市東山1052
電話/0550-83-1133 FAX/0550-83-1138
<https://www.gotemba-rc.gr.jp/>

会 長○豊山 篤
幹 事○勝又 厚
会報委員長○勝又 淳